

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に歩む」を常に心におき、事業所、各職員共にそれぞれ目標の下取り組んでいる。毎朝、朝礼時には、理念、コンセプトを唱和し、その意味を理解しながら、意識を持ち取り組んでいる。	法人理念、コンセプトについては事務所、ホールに掲示し来訪者にもわかるようにしている。家族に対しては入居時に重要事項の説明に合わせ理念について説明している。理念は朝礼時に唱和し職員が同じ方向を向いて業務に取り組むべく全体会議で話し合い、共有化を図り、利用者の支援の向上に繋げている。理念にそぐわない言動等が仮に職員にあった場合は個々に指導をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様の身体状況から、催し物への参加は難しくなっておりますが、地区の子供神輿の立ち寄り、地区への寄付、地区の防災訓練、清掃作業等への参加、また、神社への寄付等、もさせて頂いております。	区費を納め地域の一員として活動している。区長から情報を頂き、一斉清掃や防災訓練、地区の文化祭等に参加し地域の人々と交流を深めている。本年も引き続き地域の福祉専門学校の生徒が来訪し1年生は傾聴と食事介助、2年生は夜勤体験他の介護実習に携わり利用者とお交わる時間を持っている。また、信州大学吹奏楽部の来訪も年2回あり、迫力のある演奏を楽しんでいる。更に、フラダンス、手品等のボランティアの来訪も定期的にあり利用者も楽しみにしている。合わせて地域の皆様にはホームに来訪していただき、知っていただけるような活動を考えており、その一環としてホームの防災訓練をアビールし見学に来ていただく等の活動を展開予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際には、法人、地域で行われる認知症に関する講習会の案内やパンフレットの配布等にて、参加への紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	茜・東雲棟にて、交互に行っている。その際は、施設内の様子を見て頂いている。地域包括、民生委員、区長、ご家族代表様に、日々の状況が分かる資料を基に説明し、意見を頂戴している。	家族代表、区長、地域包括支援センター職員、民生委員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、偶数月に開催している。利用状況の報告、行事報告、意見交換等が行われている。合わせて「ひもときシートを使い、利用者がどんな事に喜ぶか」を纏めた事例発表も行い出席者からの意見も頂き支援に役立てている。各ユニットのホールに於いて交互に開催し、外部からの方が見えることで職員も緊張感を肌で感じ初心に戻り、より良い支援に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者、地域包括等関係各位への訪問をし、情報収集、情報提供等により、取り組み状況を報告しながら、協力関係を築く努力をしている。	市の長寿課に訪問し利用状況の説明等を行い良好な関係作りに努めている。介護相談員の2ヶ月に1回の訪問があり、利用者との時間をもち、後日書面での報告がある。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い、三分の一位の家族が立ち会われている。市主催の研修会には積極的に参加するようにしている。	

グループホームさとび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議、必要時において研修を行い、常に各職員が意識を持ちケアに取り組んでいる。マニュアルが整備され、閲覧できる体制を整えている。離設リスクの高い箇所は、必要に応じ施錠している。	身体拘束を必要とする利用者はなく、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠しているが、中庭に出る開き戸は開錠され自由に出入り出来るようになっている。入居間もない利用者もおられ、外出傾向の強い利用者もいるが、散歩をし気分転換したり、関わる時間を多く取り対応している。所在確認は、日中、夜間を問わずにきめ細かく行い安全確保に努めている。全体会議の中で拘束についての研修会を行い意識を高めて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることのないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議時、必要時において研修を行っており、ケアの際には、身体状況の確認を常に行い、痣や内出血がないか、把握している。常にマニュアル整備をしておき、閲覧できる体制を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」を理解する為に講習会に参加する等、理解を深める努力をしている。また、制度を利用しているご利用者様、ご家族様への対応についても、学ぶ機会を作り配慮をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまで、時間をかけご納得されたからの契約をしている。各書類の説明には時間をかけ、その都度、不安・疑問を解消しながら説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を用意し、ご意見を頂ける状況を用意している。家族会開催時には、アンケートのご協力を頂いている。各職員は、貴重なご意見として傾聴している。	利用者の要望は様子を見て職員が丁寧に問い掛けを行い思いを推し量り意向を受け止めるよう取り組んでいる。家族の来訪は週1・2回から2ヶ月に1回位まで様々であるが来訪された際には利用者の様子等を丁寧に話すように心掛けている。家族会は年2回、7月の夏祭りや10月のブドウ狩りを兼ねてを行い、食事会やゲーム等で楽しい1日を過ごしている。誕生日会も本人の生まれた日にお花等の好きな物を準備しケーキを食べてお祝いしており、参加される家族もいる。ホームの便り、「さとび便り」も2ヶ月に1回発行され、利用者の様子をお知らせして喜ばれている。合わせて個人別の状況も、毎月請求書に同封し、管理者より手紙でお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、朝礼時等職員が意見を述べやすい状況と機会を設けている。また、その提案をすぐに実行できる職員間の人間関係が築けている。	月1回、全体会議をほぼ全員参加で実施している。利用者の現在の状況報告、ヒヤリハットの報告、行事の企画や実施報告、各研修会の報告等が行われ、また、提案、意見交換が活発に交わされ全員で良いホームを作り上げるべく気持ちを一つにし取り組んでいる。職員は半年毎に自己目標を設定し自己評価後、管理者による個人面談が行われスキルアップに繋げている。	

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員のスキルアップの為に各研修への参加を促し、自らが講師となり周知する等、自分の得意とする部門を各職員が中心となれる場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通し、法人内外で行われる研修には積極的に参加できるようにシフトを組んだり、各職員に対して参加の必要性を理解してもらいながら取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講演会や、グループホーム会議への参加等、情報交換を行いながら、サービスの質の向上をしていく為の取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのような状況においても、ご利用者様からの訴え、要望について傾聴させて頂く姿勢は崩さず、共感させて頂く。という考えのもと、各職員が関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに至るまでに話し合いを繰り返し、ご家族が望む生活をよく理解できる努力をしている。ご家族の訴え、意見を傾聴させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多岐にわたるご利用者様、ご家族様の思いや訴えを理解し、どのようなサービスが出来るのかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念でもある「共に歩む」を常に念頭におきながら、職員視点の介護にならない努力を日々行っている。人生の大先輩でもあるご利用者様の尊厳を重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大事なご家族をどのような想いで私達職員に託しているのか、各職員がそのお気持ちを察しながら丁寧にご家族様との関りを大事にしている。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過ごされてきた地域での馴染みの生活に少しでも近づけるよう、知人、友人、ご家族様との良い関係が続くよう、配慮、支援させて頂いています。	友人、知人、教え子などの来訪があり居室にてお茶をお出しし寛いでいただいている。来訪者についてはその都度家族にお知らせしている。家族と行きつけの美容院に出掛ける方がおられ、また、手紙や電話を頂く方も数名いる。本年度は利用者手作りの年賀状を家族に発送予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士良い関係が築けるよう、テーブル席の配置替え等細かい配慮もしながら、常に職員も見守り和やかに過ごして頂ける努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽にお声がけや来訪して頂けるような関係性を築けるような努力をし、関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様それぞれの時代背景や、願い、想いが違う事を各職員が理解する努力をしている。想いを伝える事が難しいご利用者に対しては、生活歴を把握し、ご家族様にも伺いながら把握に努めている。	自分で意思表示の出来る利用者は半数位であるが家族からお聞きした生活歴や好きな物を参考にしながら丁寧な声掛けに徹し、表情で判断し意向に沿った支援に取り組むように心掛けている。独居生活の長かった方には特に気を使い、その方のペースに合わせトイレ介助等には特に留意している。気になる言動については介護記録に残し、翌日の朝礼で確認し合い支援に取り組むようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることは、望む生活にもつながる為、情報収集、意見交換をし各職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中でも、その身体状況、心身状況も変化がある為、その変化に気付けるよう、普段の生活を把握する努力を日々行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の望む生活を実現していく為に、関係者と話し合いながら方向性を検討している。気持ちに添った計画を作成している。	全職員一人ひとりの利用者の状況を共有するようにしている。利用者の情報は管理者に一本化され利用者個々に気になる事柄のある都度モニタリングを行い、家族に連絡を取り、また、来訪時には希望もお聞きし、1週間～10日間でプランを試し評価を行い計画作成に繋げている。状態に変化がなければ6ヶ月に1回の見直しとし、変化が見られた時には随時見直しを行っている。	

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より良いケアを目指し、ご利用者様の現状を文書化し、訪問看護、訪問歯科と情報を共有し、日々の変化に対応し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に柔軟な対応が取れる為に、状況の変化に配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括、民生委員、地域住民様からの情報交換を行い、介護相談会においてはご利用者様からの会話の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には、協力医療機関の説明を、懇切丁寧に、希望に添った受診支援を行っている。かかりつけ医との連携にも力を入れている。	入居前からのかかりつけ医利用の方は四分の一ほどで、月1回、家族対応の受診となっている。その他の利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応し、合わせて週1回、協力医の訪問看護師の来訪があり利用者の体調管理を行い24時間体制で、医師との連携も取ることができ充実した医療体制となっている。また、歯科医の訪問診療も週1回行われ、半数の方が利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ご利用者様の現状を文書化し、週1回の訪問看護の際には活用をしている。状況の変化はその都度確認し記録に残している。必要時には、医師にも相談して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、入院訪問をしご本人様ご家族様とも連絡をとりながら意向を確認します。法人系列の医療機関、他医療機関の関係者とは密に連絡を取りながら、退院時カンファレンスを行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての意向の確認を致します。必要時期、早い段階から意思確認を行い、医療チームが組まれているので、納得されるまで丁寧に説明し、支援に取り組んでいます。	重度化の取り組みについてホームとしての指針があり、利用契約時に説明し意向確認の上同意書を頂いている。利用者がその状況に到った時に改めて医師を交えて家族に説明し、看取りケアの同意書を頂き最期の時を住み慣れたホームで迎えていただくよう全職員気持ちを一つにし支援に取り組んでいる。この1年間に6名の看取りを行った。職員間で情報を共有し、必要事項を細かく把握し、訪問看護師と連携を取りつつ、より細部に渡った指示を仰ぎながら最期のお見送りをを行い、家族からも感謝の言葉を頂いている。	

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練においてAED使用した講習、実践はもとより、委員会による自設内研修を行います。緊急時の連絡体制も整備されています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練において本番さながらの避難訓練をします。また、地域の方には、協力体制を築く為にも、地域の防災訓練への参加や、地域行事等にも参加させて頂いています。	6月と11月の年2回、消防署へ届け出の上、防災訓練を実施している。もらい火想定火災訓練も行い、利用者の所在確認、各居室の確認、ホールや玄関への避難誘導訓練を実施している。合わせて、「AED」・「消火器」の使用訓練、通報訓練を行い防災意識を高めている。また、9月には法人の防災担当者参加の下、地震想定訓練も実施している。今後、地域に密着したホームを目指し、地域の防災訓練にも参加し、合わせ当ホームの防災訓練への見学や参加についてアピールを行って行く予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の大先輩でもあるご利用者様に対し、敬う心を忘れません。全職員声掛け、挨拶は特に気を付けて取り組んでいます。	利用者のプライバシー空間を大事にするよう心掛け取り組んでいる。入室の際にはノックの後、心の中で3拍子数え失礼しますと声掛けをするようにしている。言葉遣いには特に気を付け、トイレ介助等は人前で大きな声で話し掛けないよう気配りしている。法人やホーム内部の研修を年2回行い、人権尊重の意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中々、ご自分の想いや、願いを表現できない方も増えています。情報シート等のツールも使用したり、表情や生活歴等からも探っていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを最優先にし、気持ちを伺いながら、職員が見守ります。体操や、レク等団体で行う時には、無理強いはせずにお誘いします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ただあるものを着るのではなく、自分で選べる方には選んで頂き、そうでない方には、職員がコーディネートをします。身なりを整え鏡を見て頂くよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜が採れる時には一緒に収穫し、食卓にだします。ジャガイモや玉ねぎの皮を剥く等、出来る事を楽しみながらやって頂きます。また、お片付けテーブルを拭く等も楽しんで頂いています。	常食かつ一口大で自力摂取できる方が三分の二おり、極キザミとトロミの全介助の方が数名という状況である。献立は冷蔵庫にある食材で、近々の献立とダブらないことを意識し調理している。利用者は下準備、テーブル拭き、後片付と出来ることお手伝いして頂いている。また、正月、お盆、お彼岸、クリスマス、家族会等には家でも作るような季節の料理を調理し、楽しい食事の時を持っている。更に、干し柿作りや中庭での野菜作りも楽しみの一つとなっている。	

グループホームさとび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前午後のお茶、食事での水分量を一日毎で把握。食形態は個別対応しており、摂取、飲水しやすい状況での提供。必要時、トロミやゼリー等で提供。医師、看護師、栄養士、歯科ドクターからの連携あり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別対応しており、毎食後口腔ケアを必ず行っています。訪問歯科ドクターからは、毎週各利用者様の状況の報告を受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にかなりの違いがあります。尿意、便意ある方はその状況での対応や、排尿パターンを調べてその方のリズムにあった声掛け、全介助の方は定時交換の他に、表情や様子から適時行っています。	全利用者が何等かの介助を必要としている状況である。利用者の排泄パターンを掴み記録に残し、一人ひとりの状況に合わせ声掛けを行い、スムーズな排泄に繋げている。表情や様子を見ながら声掛けは人前では行わず耳元で優しく行い、トイレにお連れするように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	違いが大きくなりますが、体操をしたり一緒に歩いたり、楽しく体を動かせる努力をしています。排便コントロールは、医師確認の下、体に合ったコントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、週2回を予定していますが、必ずバイタルチェックを行い、その日の体調にも合わせます。気分の乗らない日には、無理強いせず、入浴日をずらす等対応しています。	全利用者が介助を必要としている状況である。週2回以上の入浴を行い、現状、拒否の方もなく、全員が入浴出来ている。入浴剤や「ゆず湯」、「菖蒲湯」、「みかん」等で季節のお風呂も楽しんでいる。また、家族と泊りで温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に自由に休んで頂いています。居室で、ホールで、テーブルと様々です。夜は皆様居室にて休まれますが、夜間ホールに出て来られ、ソファで眠られたりと、自由です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は徹底しています。また、誤薬を防止する為、内服までにダブルチェックを必ず行います。処方箋ファイルにて、目的、副作用等随時確認をし、変化がある時、医師、看護師に連絡します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で、生活の中でやって来られた事を役割として分担してもらいます。職員も感謝の言葉を忘れません。レク、行事、クッキー、たこ焼き、餃子作り等、楽しめる事はたくさんあり、気分転換に役立っています。		

グループホームさとし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の一人ひとりと協力しながら出かけられるように支援している	行事で、花見、ぶどう狩り、紅葉狩り、お散歩、随所でお出かけをしています。また、ご家族様にも協力頂き、外出できる方は思い思い自由に外出、外泊されています。身体的に難しい方は、庭に出たり、近くをお散歩します。	外出時、自力歩行の方が三分の一、車イスの方が半数という状況である。日常的には中庭に出て外気浴を楽しんだり玄関前の駐車場周りを散歩している。年間の活動計画があり4月には諏訪湖まで出掛け花見、いちご狩り、外食を楽しみ、10月にはブドウ狩りを兼ね家族会を行い外食を楽しんでいる。また、6月には外食会を行い、11月の紅葉狩りの際にも外食を楽しみ、更に、度々、少人数に分かれドライブに出掛けており外の空気に触れ気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全て、施設で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の意向も確認しています。ご本人様の要望に添いながら、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう、花や、タペストリー等の飾り付けをしています。温度・湿度調整は欠かさず行い、過ごしやすい環境に整えています。新聞、雑誌も揃え思い思いに過ごせる空間作りをしています。	広い中庭にはイス、テーブルが置かれ、寛ぎのスペースが設けられている。また、畑もあり、野菜栽培も合わせて楽しんでいる。リビング、ホールは広々とし天井も高く開放感がある。壁には全員で作成した貼り絵作品や家族会・運動会等の行事の写真、外出の様子等が紹介され、ホームでの活動の様子が見て取れる。そのような中、談笑しテレビを見てにこやかに過ごす利用者がいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状況に応じて、椅子の配置替えや、食事席にも配慮しています。気の合った方同士過ごせるような、テーブルやソファへの声掛けもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年馴染んできた家財や配置を心がけています。ですが、状況によりそれが危険リスクの高い要因になる事もあるので、その時には、ご本人、家族様と話しながら対応しています。	掃除が行き届いた綺麗な居室にはルームエアコンと空気清浄機が備え付けられ匂いもなく清潔感が漂っている。大きなクローゼットと洗面台が設置され暮らし易い設計となっている。そのような中、絵画やイス、テーブル、仏壇、テレビ等が置かれた居室があり、自由に思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誤食、転倒あらゆる危険リスクを回避する為、内部の清掃を強化し、危険物の排除に気を配ります。自立歩行、補助用具使用の移動には、足元の確保は必至です。		